

小型真空包装機 保証書

持込修理

型番	NL-280V-10A		
お客様	ご住所	〒□□□ □□□□ TEL.	
	お名前	様	
保証期間	本	お買上げ日から	
	体	1年	お買上げ日
販売店	住所・店名	TEL.	印

●この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて、無料修理をお約束するものです。したがって、この保証書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについて、ご不明の場合は、お買上げの販売店、またはシュアーお客様ご相談センターへお問い合わせください。

●お客様の正常なご使用状態で、万一故障した場合は、本保証書記載内容によりお買上げの販売店が無料修理いたします。

●左の欄に記入のない場合は有効とはなりませんから必ず記入の有無をご確認ください。もし記入がない場合は、直ちににお買上げの販売店にお申し出ください。本書は再発行しませんので紛失しないよう大切に保管してください。

●販売店様へ：太ワクの中は必ず記入してお渡しく下さい。

保証規定

- 保証期間内(お買上げ日より1年間)に、正常なる使用状態において、万一故障した場合には無料で修理いたします。
- 修理は、お買上げ販売店に必ず本保証書をご提示の上ご依頼ください。
- ご転居の際は、事前にお買上げの販売店へご相談ください。
- つぎのような場合には、保証期間内でも有料修理になります。
 - 使用上の誤り、不当な修理や改造による故障及び損傷
 - お買上げ後の輸送、移動、落下等による故障及び損傷
 - 火災、地震、風水害、落雷、塩害、ガス害、その他の天災地変、公害及び異常電圧などによる故障及び損傷
 - 車両、船舶等に搭載された場合に生ずる故障及び損傷
 - 腐食などによる故障及び損傷
 - 樹脂部品、塗装面、メッキ面などの自然退色、劣化、剥離などによる損傷
 - 本書に記載する交換部品の消耗による交換
 - 弊社の指定する部品以外の部品・原材料または洗剤等を使用したことに起因する故障及び損傷
 - 本書に記載する消耗品の交換及び定期交換部品の指定どりの交換の未実施による故障及び損傷
 - 本書にお買上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合
- 本器の性能上問題がないことが一般的に認められている現象等(通常の運転音、振動、操作フィーリング等)については、保証対象外になります。
- 本器を使用できなかったことによる賠償費用は弊社が負担することはいたしません。
- 本保証書は日本国内においてのみ有効です。This guarantee is valid only with in Japan.
- 本保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。
- 出張修理をご依頼の場合は出張に要する実費を申し受けます。

株式会社 石崎電機製作所

■シュアーお客様ご相談センター 〒340-0807埼玉県八潮市新町9 TEL.048-931-3110

小型真空包装機 型番 NL-280V-10A

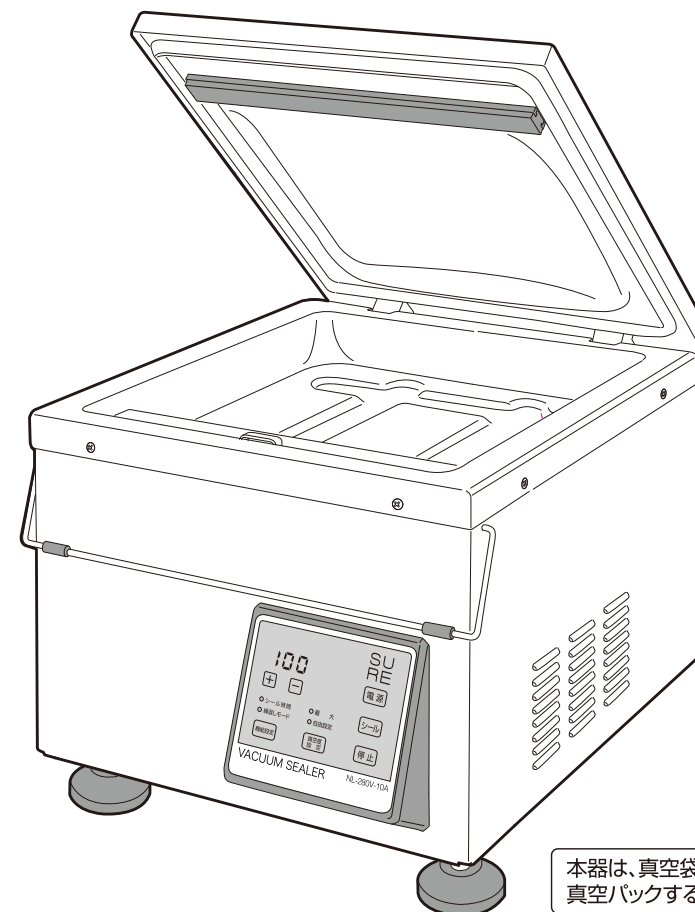
SURE

取扱説明書

保証書付

このたびは小型真空包装機をお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。

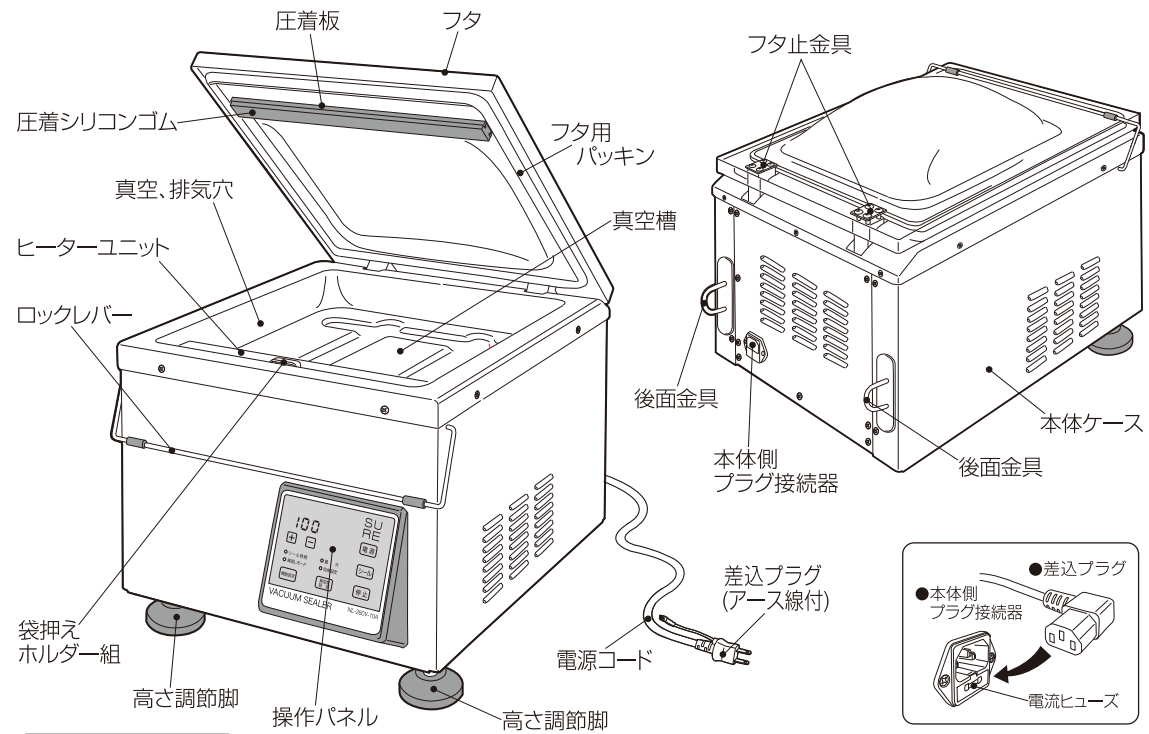
ご使用前にこの取扱説明書をお読みいただき、安全上のご注意、使用方法など、本器の内容をご理解された上で正しくご使用ください。お読みになったあと、いつでも必要なときに取り出せるように、必ず保管してください。



本器は、真空袋に品物を入れ、真空パックする機器です。

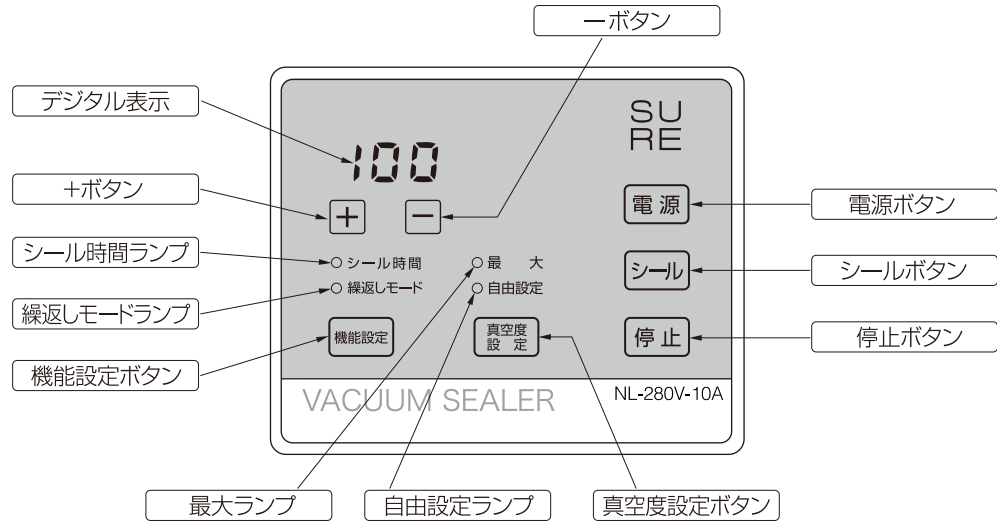
もくじ	ページ
各部の名前	1
安全上のご注意	2~3
使用上の準備	4
操作パネルの説明	5
試し運転	6
操作手順	7~8
清掃と保管	8~9
真空パックのポイント	9
電子音「ピー」について	9
保守点検・部品交換	10~12
故障かな?と思ったら	13
補修部品・別売品	13
仕様	14
アフターサービスについて	14
保証書	裏表紙

各部の名前



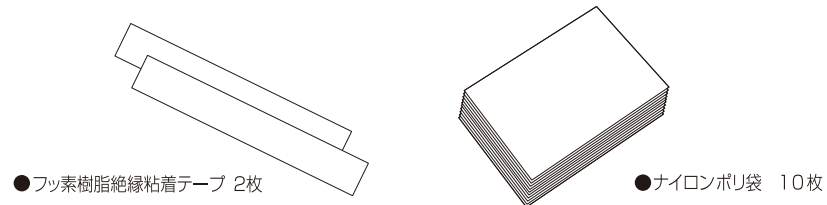
操作パネル

※詳細はP5「操作パネルの説明」をご覧ください。



付属品

下記の付属品と取扱説明書が梱包されています。万が一不足の場合はご面倒でもお買い求めの販売店に申し出てください。



安全上のご注意

ご使用前に、「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また、注意事項は危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、「警告」「注意」の2つに区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。



警告

この表示を無視して間違った取り扱いをしますと、使用者や近付いた方が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを表しています。



注意

この表示を無視して間違った取り扱いをしますと、使用者や近付いた方が障害を負う可能性が想定されること、また、物的損害のみの発生が想定されることを表しています。

※物的損害とは、家屋、家財及び家畜・ペットにかかわる拡大損害を示します。

●具体的な絵表示には次の意味がありますので十分に理解してお読みください。



禁止(してはいけないこと)を示します。
具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示しています。



強制(必ずすること)を示します。
具体的な強制内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示しています。

警告



分解禁止

●修理技術者以外の方は、絶対に分解・修理を行わない、また改造はしない。
感電、漏電、異常動作による事故やケガの原因になります。



必ず行う

●100V15Aのコンセントを単独で使う。
他の器具と併用した分岐コンセントは異常発熱して発火、やけどの原因になります。



必ず行う

●異常・故障時にはすぐに使用を中止し、差込プラグを抜く。
・電源コードを動かすと通電したり、しなかったりする。
・コゲくさい臭いがする。
・電源コードや差込プラグが異常に熱い。
などの症状が出たら、すぐに販売店または、シュアーお客様相談センターへ点検・修理を依頼してください。



禁止

●子供だけで使わせたり、手の届くところで使わない。
人身事故につながる恐れがあります。



禁止

●燃えやすいもののそばや揮発性ガスなどの充満した場所では使用しない。
火災、爆発の原因になります。



禁止













●本器、及び操作部には水をかけない。
漏電、感電や本器の故障の原因になります。

食品衛生法に基づく食品等事業者の法的責務

食品衛生法により、食品事業者は自らの責任において食品の安全性を確認するように求められています。調理において安全性を確保するためには、製品の安定した性能の維持が重要で、毎日の点検・清掃を行う衛生的にご使用ください。

安全上のご注意(2)

⚠️ 注意

 プラグを抜く	<ul style="list-style-type: none"> ●異音、異臭、漏電などの異常が発生した場合は、すぐに使用を中止して、電源を切り、差込プラグをコンセントから抜く。感電・ショート・発火・けが・やけどの原因になります。 	 禁止	<ul style="list-style-type: none"> ●操作パネルには絶対に水をかけない。本器の故障、漏電、感電事故の原因になります。
 禁止	<ul style="list-style-type: none"> ●フタの上に顔や手等を近づけない。ロックレバーを外したり、真空パック作業が終了すると、フタが自動的に開くのでケガをする場合があります。 	 必ず行う	<ul style="list-style-type: none"> ●アース線をアース端子に接続し アースを必ず取る。感電事故の原因になります。
 必ず行う	<ul style="list-style-type: none"> ●熱い食品などは、10℃以下に冷やしてから真空パックをする。温度と真空度により沸点が変わるので、食品がふきこぼれる場合があります。ふき出した物がヒーターユニット、電極等に触れると漏電、感電事故や本器の故障の原因になります。 	 禁止	<ul style="list-style-type: none"> ●電源コードや差込プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使わない。感電・ショート・発火の原因になります。
 禁止	<ul style="list-style-type: none"> ●交流100V以外では使用しない。火災・感電・故障の原因になります。※本器は日本国内、100V専用です。 	 禁止	<ul style="list-style-type: none"> ●電源コードを傷付けたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしない。また、重い物を載せたり挟み込んだりしない。コードが破損し、感電・ショート・火災の原因になります。
 禁止	<ul style="list-style-type: none"> ●差込プラグにピンやクリップやごみを付着させない。感電・ショート・発火の原因になります。 	 ぬれ手禁止	<ul style="list-style-type: none"> ●濡れた手で差込プラグを抜き差ししない。感電の原因になります。
 プラグを抜く	<ul style="list-style-type: none"> ●差込プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の差込プラグを持って引き抜く。感電・ショート・故障の原因になります。 	 必ず行う	<ul style="list-style-type: none"> ●使用時以外は差込プラグを必ずコンセントから抜く。けが・やけど・絶縁劣化による感電・漏電火災の原因になります。

お願い

<ul style="list-style-type: none"> ●真空パックするときは、必ず「試し運転」をしてから使用してください。(P6「試し運転」をご覧ください) 	<ul style="list-style-type: none"> ●フタ用パッキンに傷や裂けがある場合は交換してください。真空度が不安定になり十分な真空パックができない場合があります。
<ul style="list-style-type: none"> ●フッ素樹脂絶縁粘着テープが焼けたり、穴が開いている場合は交換してください。シール面が波を打ったり、溶着度が弱くなり十分なシールができなくなります。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ヒーターユニットは消耗品ですので、傷んだり、消耗した場合や断線の時は交換してください。ヒーター線のみの交換はできません。ヒーターユニットで交換してください。
<ul style="list-style-type: none"> ●フッ素樹脂絶縁粘着テープ、圧着シリコンゴム、フタ用パッキンは、つねに清潔にしてください。ゴミ、汚れなどの付着物、傷、へこみなどがあると、きれいに真空パックできません。 	<ul style="list-style-type: none"> ●連続使用の場合は、定期的にも本器を休ませてください。連続使用は2時間が目安です。(ショット間の休み時間を30秒とした場合)内部機器(真空ポンプ、モーター、トランスなど)が発熱し、本体も熱くなり、各 부품の寿命が著しく低下します。再開する場合は、本体が常温になっていることを確認してから行ってください。
<ul style="list-style-type: none"> ●必ず定期点検を1年を目安に実施してください。 	

使用上の準備

設置

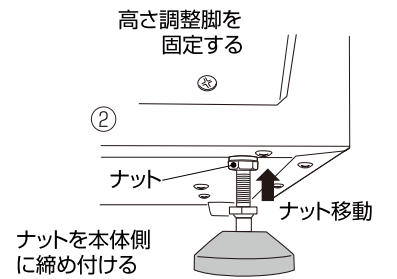
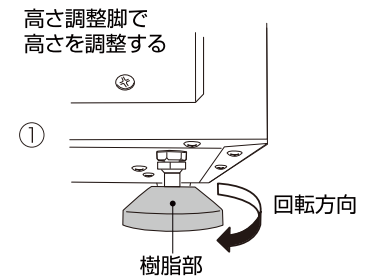
本器を安定したテーブルなどに置きます。

設置上の注意

- ・必ず水が掛からない場所に水平に設置し、動かないよう固定してください。
- ・本器と他の機器または壁との隙間は、5cm以上確保し、本器の上方は、フタの開閉ができる空間を確保してください。
- ・熱気や湿度の少ない所に設置してください。
- ・設置場所の周囲温度は、5℃～30℃でご使用ください。

■脚の高さ調整(傾斜を付けて作業する場合に行ってください)

1. 高さ調整脚で高さを調整する。
本体を持ち上げ、高さ調整脚の樹脂部を回して高さの調整を行ってください。左右2本の脚が平行になるようにしてください。
2. 高さ調整脚を固定する。
左右の高さ調整が出来たらナットを回転させ、本体側に締め付けてください。

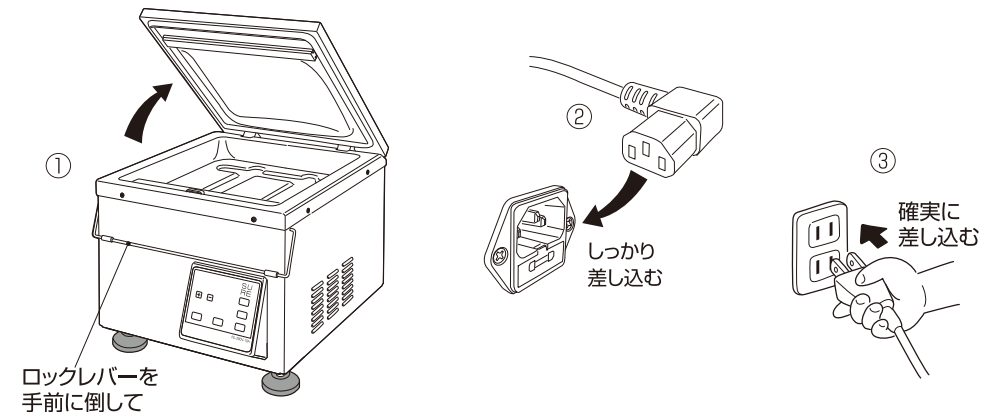


高さ調整脚の特徴

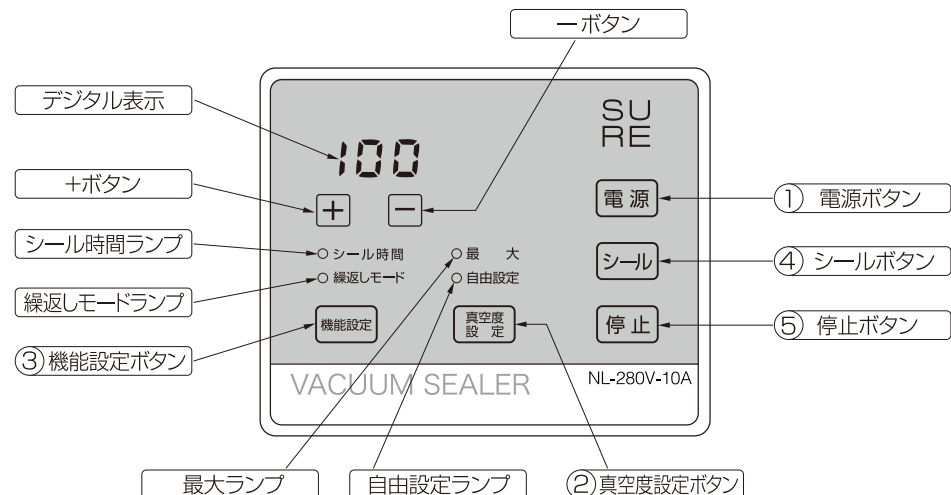
1. 袋からの水分などの吹きこぼれを防ぎます(当社NL-280V-10との比較による)。水分のある食品などを真空パックする場合は、袋容量の1/3程度に抑えてください。
2. 万一吹きこぼれた場合でも、容器内の後方に水分は集まり、ヒーターユニットへの影響を最小限に食い止めます。

■フタを開け、電源コードを取り付ける。

1. フタのロックレバーを手前に倒してフタを開きます。
2. 電源コードを本体裏側のプラグ接続器の奥までしっかり差し込みます。
3. 差込プラグを100V 15Aのコンセントに単独で、確実に差し込んでください。
4. 差込プラグのアース線をコンセントのアース端子につなぎます。



操作パネルの説明



電源コードの差込プラグをコンセントに差し込むと、デジタル表示は、「OFF」となります。

- ① 電源ボタン 電源ボタンを押すと、シール時間ランプが3回点滅し、シール時間を表示後真空度をデジタル表示します。
- ② 真空度設定ボタン 真空度設定ボタンを押して、最大か自由設定を選択します。
 - 真空度の設定
 - 最大:「100」を表示します。
 - 自由設定: +、- ボタンを押すと、5刻みに「50」～「100」を設定できます。真空度の設定値は、「100」で本器の最大真空度の約100%、「50」で約50%を表示します。本器の最大真空度は、約-99kPa(キロパスカル)です。
- ③ 機能設定ボタン 機能設定ボタンを押して、シール時間が繰り返しモードを選択します。
 - シール時間の設定
 - シール時間を選びます。+、- ボタンを押すと、0.5秒毎に、「0.0」～「6.0」秒を設定できます。
 - 繰り返しモードの設定
 - 繰り返しモードを選びます。設定真空度で約3分間保持し、大気圧付近まで戻し、再度設定真空度にする作業を繰り返します。+、- ボタンを押すと、3分毎に、「03」～「30」分を設定できます。例えば、「09」では、設定真空度の真空ポンプ可動時間も含め、約3分間保持し、その後大気圧付近まで戻して、再度、設定真空度まで真空ポンプが可動して、約3分間保持することを、3回繰り返します。「18」では、6回となり、最大「30」で、10回となります。詳細は、P8でご確認ください。
- ④ シールボタン 真空ポンプ動作中に、真空作業を止めて、シールしたい場合は、シールボタンを押してください。真空度設定値より、早くシールしたい時、もしくは、液体が沸騰して袋からこぼれそうになった時点でシールしたい時に使用します。
- ⑤ 停止ボタン 作業中、異常があった場合は、停止ボタンを押してください。停止ボタンを押すと作業が中断され、直ちに真空槽内に空気が挿入され、フタが自動的に開きます。

※運転していない時に、シールボタン、停止ボタンを押しても、何も起こりません。

※作業中に停電や間違って差込プラグが抜かれた場合は、作業が中断され、フタが閉じたままとなります。差込プラグを入れると「OFF」表示後、「LP」表示になります。停止ボタンを押すとフタが開きます。各部に異常が無い点検してください。

試し運転

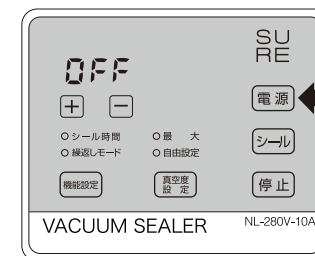
ご使用前に必ず試し運転を行い、真空状態と各部が正しく作動することを確認してください。



必ず行う

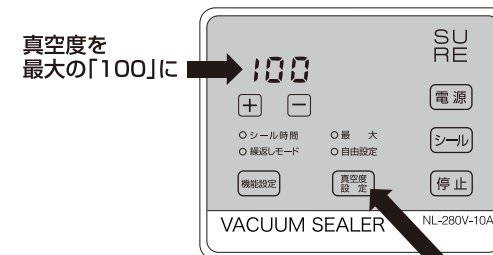
試し運転の方法

(1) フタを開いた状態で、電源ボタンを押します。



フタを開いた状態で、電源ボタンを押す

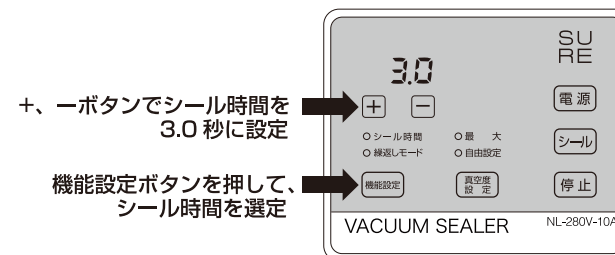
(2) 真空度設定ボタンを押し、真空度を最大の「100」にします。



真空度を最大の「100」に

真空度設定ボタンを押し、真空度を最大の「100」に

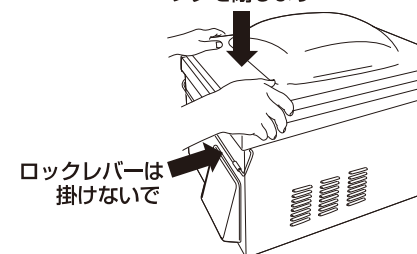
(3) 機能設定ボタンを押して、シール時間を3.0秒に設定します。



+、- ボタンでシール時間を3.0秒に設定

機能設定ボタンを押して、シール時間を設定

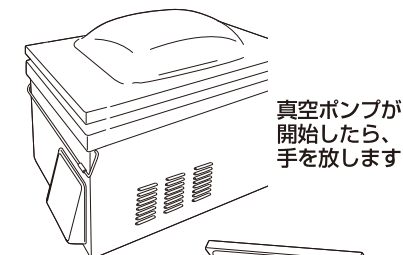
押し付けるようにしてフタを閉じます



ロックレバーは掛けないで

(4) 真空槽には何も入れずに試し運転を行います。

- 1) フタの手前を持ち、押し付けるようにしてフタを閉じます。ロックレバーは掛けないでください。試し運転の作業終了後もフタは自動で開きません。
- 2) 真空ポンプが運転を開始したら、手を放します。
- 3) 真空槽の真空状況を確認します。デジタル表示が最大の「100」まで上昇します。
- 4) 真空ポンプは、約1分間運転し運転中に、ヒーターユニット本体が上がり3秒間圧着加熱し、その後冷却の作業を行います。
- 5) 真空槽内に空気が挿入され、フタが自動的に開きます。



真空ポンプが開始したら、手を放します

(5) 各部が正しく作動し、設定された真空度、シール時間がデジタル表示されることを確認してから真空パック作業に入ります。

※正しく試し運転が行なわれない場合は、P13の「故障かな?と思ったら」を参照し、処置してください。

※フタの開閉に十分注意

フタを閉じる時、指やロックレバー等を挟まないように注意してください。作業終了時フタが自動で開きますので、フタの上に顔や手等を近づけないでください。



フタが自動的に開きます

操作手順

■操作手順

(1)真空袋を必要数準備します。

(2)真空度を設定します。

真空度設定ボタンで●最大「100」か●自由設定を選びます。
●自由設定は、+、-ボタンで「50」～「100」に設定ができます。
最初は●最大「100」に仮設定します。
(真空度は、本器の真空到達度に-99kPa以下の%(パーセント)でデジタル表示します。)

(3)シール時間を設定します。

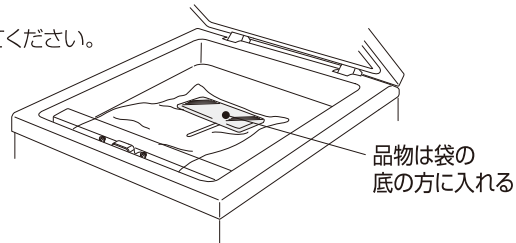
機能設定ボタンで●シール時間を選びます。
+、-ボタンで「0.5」～「6.0」秒の設定ができます。

袋の材質、厚さとシール時間の例

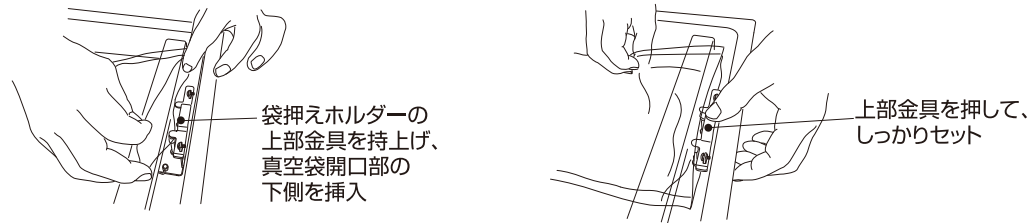
材質	厚さ	適正シール時間(秒)
ナイロン・ポリエチレン	0.070mm×2枚	3.0
アルミラミネート	0.090mm×2枚	3.5

※真空袋の材質、厚さ、形状等と電圧変動でシール状態が変化することがあります。最初は「3.0」秒に仮設定します。

(4)真空袋に品物を入れます。
品物は袋の底の方に入れてください。



(5)ヒーターユニットの手前にある袋押えホルダーの上部金具を持上げ、真空袋開口部の下側を挿入し、上部金具を押して、しっかりセットします。
真空袋の開口部を左右に引張り、シワがないようにします。



(6)フタを閉じます。

真空運転が開始され、その後真空袋がシールされ、真空パックができます。

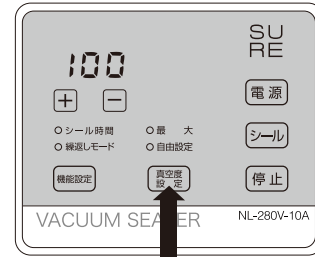
シール ボタン:真空運転中に設定真空度に到達する前に真空運転を止めて、シールしたい時はシールボタンを押してください。
シール完了後、真空槽に空気が挿入されて、フタが自動的に開きます。

停止 ボタン:真空運転中に異常が発生した場合は、停止ボタンを押してください。
真空袋をシールしないで真空運転を停止し、真空槽に空気が挿入されて、フタが自動的に開きます。

(7)シールが完了すると、真空槽に空気が挿入されて、フタが自動的に開きます。
※フタが自動で開きますので、顔や手にご注意ください。

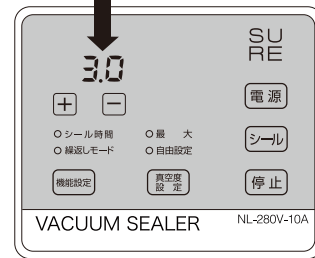
(8)真空パックされた品物を真空槽から取出します。
真空状態、シール状態を確認し、不十分な場合は適正な設定に変更してください。

(9)作業終了後、電源ボタンを押して、「OFF」にしても、シール時間、真空度設定値は記憶されます。
次に電源ボタンを押して、可動させた時は、前回の記録された設定値となります。



真空度設定を
●最大「100」に仮設定

●シール時間を
「3.0」秒に仮設定



■シール状態の確認

袋開口部を引っ張り溶着されているか確認します。

・シールが剥がれたり、しわになったり、穴が開いてしまう場合は、シールタイマーでシール時間を増減してください。

※真空袋の材質や厚みによりシールタイマーの設定値は異なりますので、真空袋に合わせて設定してください。
シール状態は、環境(電圧変動、運転時間等)により変化することがあります。



シール状況の確認!

■真空状態の確認

真空パックされた品物の真空状態を確認します。

・袋の中で品物が動いたり、強く密着してしまう場合は真空タイマーで真空度を増減してください。
※品物の種類等により真空度は異なります。ご希望の真空度に調節してご使用ください。

繰返しモードについて

■繰返しモードについて

食品に調味液等の浸透を促進させる調理等に使用します。
機能設定ボタンで●繰返しモードを選びます。

設定真空度で約3分間保持し、大気圧付近まで戻し、再度設定真空度にする作業を繰返します。
+、-ボタンを押すと、3分毎に、「03」～「30」分を設定できます。

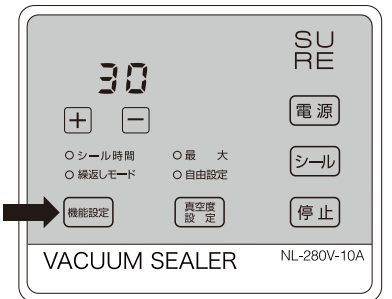
真空度設定値の真空ポンプ可動時間を含め約3分間保持し大気圧付近まで戻します。
この作業を下表の回数、シールを行わずに繰返し作業を終了します。

繰返しモード設定値(分)	作業回数
03	1
06	2
09	3
12	4
15	5

繰返しモード設定値(分)	作業回数
18	6
21	7
24	8
27	9
30	10

繰返しモードを設定
「03」～「30」

機能設定ボタン
を押して、
繰返しモードを選定



■連続作業について

連続作業の場合は、次の真空パック作業まで 30秒以上間隔を空けてください。

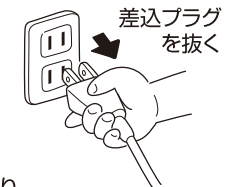
・連続運転は、2時間以内としてください。

内部温度(真空ポンプ、モーター等)が上昇し、消耗品の早期劣化や本器の故障、事故の原因になります。

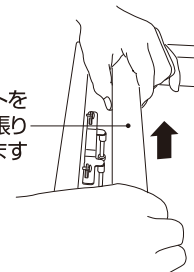
連続運転は
2時間以内

清掃と保管

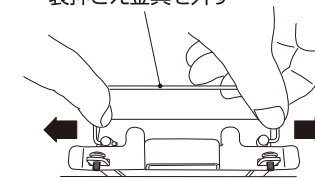
- 電源ボタンを押して、「OFF」にし、差込プラグをコンセントから抜きます。
- 真空槽内のヒーターユニットを上側に引張り、電極から外します。
- 袋押さえ金具の取付コの字形ピンを左右に引張り、袋押さえ金具を外します。
真空槽内を固く絞った布などで清掃してください。
※ステンレス製の真空槽も環境や使い方によって錆びる場合がありますので、汚れなどは、中性洗剤で落とし、常に清潔にしてください。



ヒーターユニットを上側に引張り電極から外します



コの字形ピンを左右に引張り、袋押さえ金具を外す

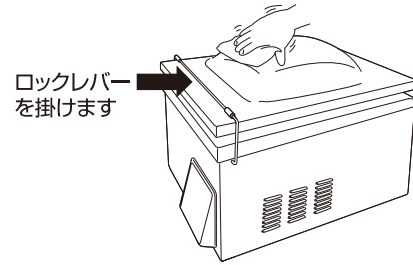


汚れ落としは
中性洗剤で



清掃と保管(2)

- (4)ヒーターユニット、袋押さえ金具、圧着シリコンゴム、フタ、本体ケースなども回く絞った布などで清掃してください。
 (5)袋押さえ金具、ヒーターユニットを元に戻して、フタを閉じてロックレバーを掛けます。

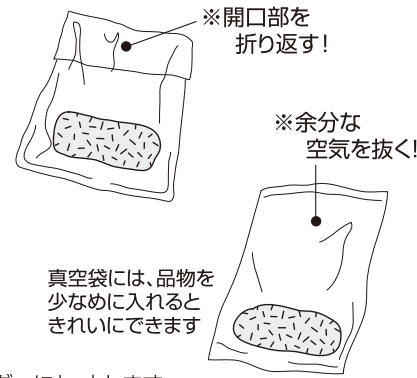


ロックレバーを掛けます

真空パックのポイント

■上手な真空パック

- (1)真空袋の開口部を折り返して品物を入れると、シール部分が汚れることなく、きれいにシールできます。
 (2)真空袋に品物を入れた後、余分な空気を抜くと、真空槽に安定して置くことができ、真空の仕上がりがきれいにできます。
 (3)真空袋には、品物を少なめに入れるときれいにできます。



※開口部を折り返す!

※余分な空気を抜く!

真空袋には、品物を少なめに入れるときれいにできます

■液状の食品の真空パック

- スープやソースなどのような液状の食品を真空パックすることが簡単にできます。
 ※液状の食品は、袋の1/3ぐらいの量で行なうことをお勧めします。
 ※最適な真空パックを行なうために、少量で試し、真空度を設定してください。

設定方法

- 電源ボタンを押して、液状の食品を入れた真空袋を真空槽に入れて、袋押さえホルダーにセットします。
- 真空度設定ボタンを押して●最大「100」にします。
- 機能設定ボタンを押して●シール時間を選定し、使用する真空袋の適正時間に設定します。
- フタを閉じ、真空ポンプが運転を開始したら、液状の真空状態を監視します。
- 液体が沸騰して、真空袋からこぼれない程度で、シールボタンを押します。その時の真空度のデジタル表示を記録します。
- 真空パック状態を確認します。
- 真空度設定を●自由設定にして、真空度設定を記録した真空度に設定します。

- 液体の沸点は、真空度(低圧)と温度の比率で決まります。
- 高温の液体を真空パックするときは、真空処理工程で、すぐに沸点に達し液体は沸騰します。
- 熱い食品などは、10℃以下に冷やしてから真空パックを行なうと、最適な真空パックができます。

- ※食品が沸騰すると気泡が出て、真空袋より食品が吹きこぼれることがありますので、食品の温度を10℃以下に下げてください。
- ※真空度の設定値は、沸騰し始めたら、すぐに止まるように設定してください。吹き出したものが真空ポンプに入るとポンプの故障の原因となります。
- ※真空処理時間は平地と高地及び大気圧により異なります。
- ※使用場所が変わった場合、必ず試し運転を行ない真空度、シール時間の設定を再度行なってから使用してください。

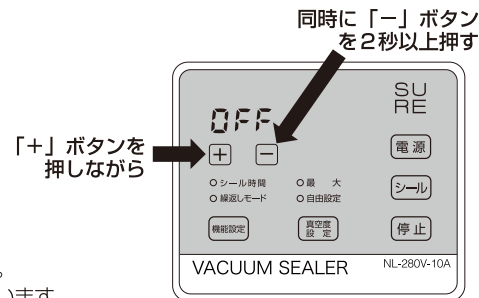
電子音「ピー」について

運転状態を監視確認するため、お知らせの「ピー」音ができます。

- 真空ポンプ運転時、真空度15%の時に「ピー」音が1回なります。
- 次に真空度50%の時に「ピー」音が1回なります。
- 真空、シール作業が終了して、フタが開いてから、次の操作が可能になった時に「ピー」音が3回なります。

「ピー」音の有無について 「ピー」音の有、無の選択ができます。

- 電源を「OFF」にします。
- デジタル表示の下にある「+」ボタンを押しながら、同時に「-」ボタンを2秒以上押します。「ピー」音となり、デジタル表示が「000」を示します。
- 「+」、「-」ボタンから指を外すと「on」を示し、「ピー」音になる設定となっています。
- 「+」、「-」ボタンのどちらかを押し、「OFF」表示となり、「ピー」音がならない設定とまります。再度、「+」、「-」ボタンのどちらかを押し、「on」になりますので、どちらかを選択してください。
- 電源ボタンを押して、「OFF」にします。
- 再度、電源ボタンを押すと、通常の運転待機状態になります。



「+」ボタンを押しながら

同時に「-」ボタンを2秒以上押す

保守点検・部品交換

保守点検・部品交換

必ず行う

保守点検表

- 日々のご使用回数によって部品等の交換時期は大幅に変わります。必ずご使用前に保守点検を行い、安全に正しくご使用ください。
- 日々の作業を安定して能率的に行うために、右記保守点検表に従い、点検してください。
- 万一、異常のある場合は、使用を中止し、P13「故障かな?と思ったら」で故障状況を確認してください。
- 早い時期の消耗部品の交換をお勧めいたします。
- 修理を依頼する場合は、販売店またはシユアーお客様相談センターへご連絡ください。

点検時期		
毎日	使用開始前	必ず設置場所、本器の状態、電源コード、差込プラグ、フッ素樹脂絶縁粘着テープなどの点検をし、正常に動作することを確認してください。
	使用后	真空槽、フタ、フッ素樹脂絶縁粘着テープ、圧着シリコンゴムは、固く絞った布で掃除してください。
毎週		フッ素樹脂絶縁粘着テープに焼け、汚れ、破れがないかご確認ください。 フタのパッキンに傷や裂けがないかご確認ください。 フタにひび割れがないか点検をしてください。
半年毎		圧着シリコンゴムに損傷がないかご確認ください。 フタのパッキンを交換してください。
1年毎		販売店またはシユアーお客様相談センターへ本器の点検を依頼してください。

部品交換方法

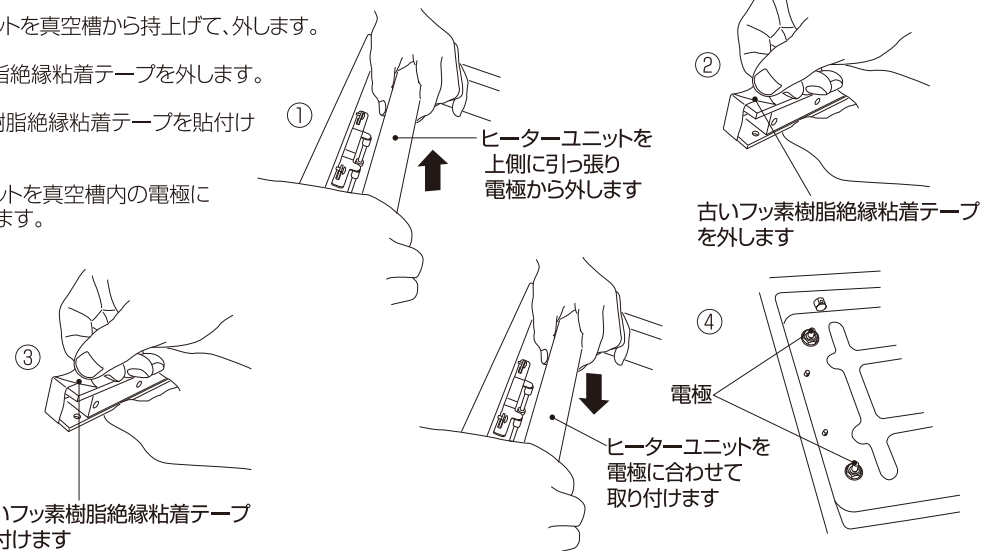
- ※作業する時は、必ず差込プラグをコンセントから抜いてください。
- ※間違った方法で部品の交換を行なうと、本器が正常に動作しないばかりか、感電、火傷になる危険性があります。
- ※消耗部品は必ず弊社指定の部品をご使用ください。指定外の部品を使用すると本器の性能が正しく発揮されないだけでなく故障の原因にもなります。

1 フッ素樹脂絶縁粘着テープ

点検 フッ素樹脂絶縁粘着テープに焼け、汚れ、破れがないか確認し、きれいにシールできなかつたり、フィルムがくっついていたりする場合はフッ素樹脂絶縁粘着テープを交換してください。

交換

- ヒーターユニットを真空槽から持上げて、外します。
- 古いフッ素樹脂絶縁粘着テープを外します。
- 新しいフッ素樹脂絶縁粘着テープを貼付けます。
- ヒーターユニットを真空槽内の電極に合せて取付けます。



新しいフッ素樹脂絶縁粘着テープを貼付けます

古いフッ素樹脂絶縁粘着テープを外します

電極

ヒーターユニットを電極に合わせて取り付けます

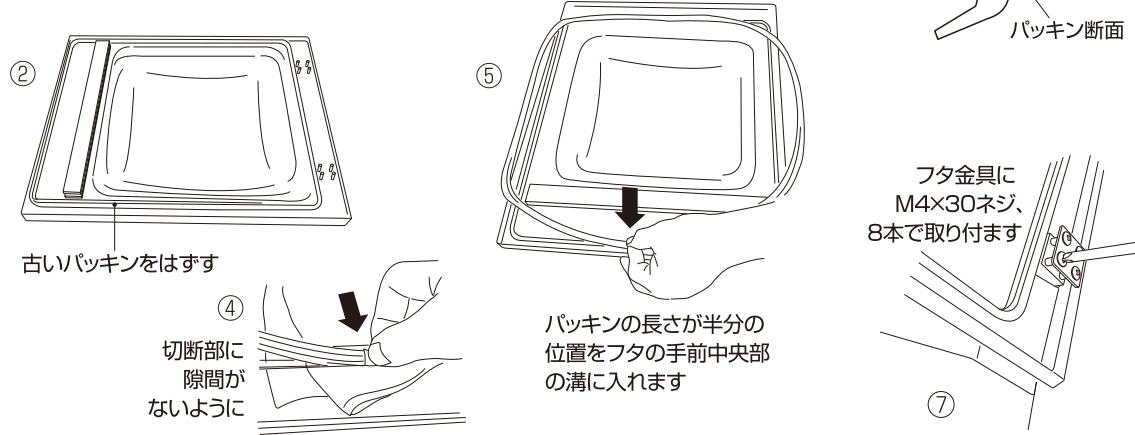
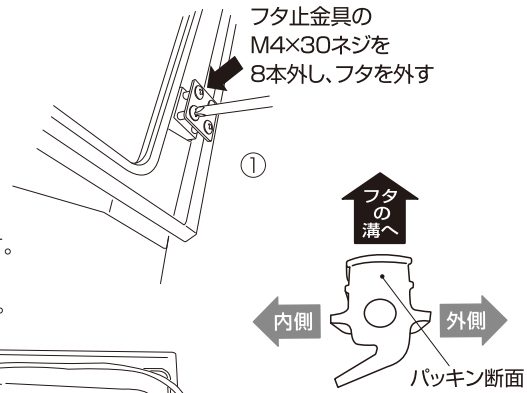
保守点検・部品交換 (2)

2 フタ用パッキン

点検 傷や裂けがないか確認し、真空状態が不完全な時は、フタ用パッキンを交換してください。

交換

- ①フタを開いた状態で、フタ止金具のM4×30ネジを8本外し、フタを外します。
- ②タオルなどの布の上にフタを逆さまにして、古いパッキンを外します。
- ③新しいパッキンを古いパッキンの長さに合わせて切断します。
- ④新しいパッキンを右図に示す断面形状の方向にして、切断部をフタ奥(ヒンジ側)中央部に切断部に隙間がないように合わせてフタの溝に入れます。
- ⑤パッキンの長さが半分位置をフタの手前中央部の溝に入れます。パッキンにねじれがないように入れてください。
- ⑥左右それぞれたるんでいるパッキンを均一に溝に入れてください。
- ⑦フタをフタ金具にM4×30ネジ、8本で取り付けます。

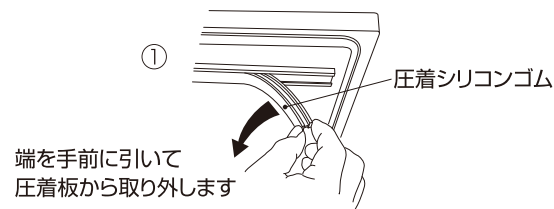


3 圧着シリコンゴム

点検 シール面が波を打っている、汚れている、フィルムがくっつきたりする場合は、圧着シリコンゴムを交換してください。

交換

- ①圧着シリコンゴムの端を手前に引いて圧着板から取り外します。
- ②圧着シリコンゴムの端を圧着板の端に合わせて押し込みます。表面が平らになるように指で押しなじませてください。
※圧着シリコンゴムが圧着板からはみ出ますと、他の部品に接触してフタが閉まらなくなったり、シールができなくなります。
※新しい圧着シリコンゴムの表面が平らでないと、きれいにシールできなくなります。

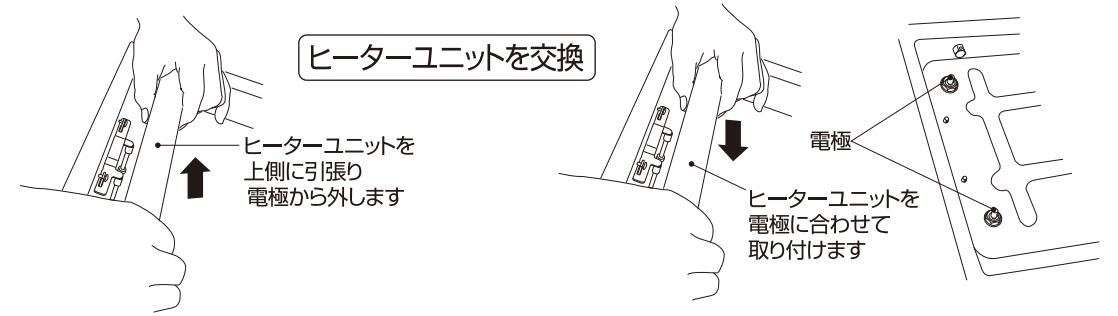


4 ヒーターユニット

点検 ヒーター線が断線したり、シールができない時は、ヒーターユニットを交換してください。

交換

真空槽からヒーターユニットを取り出して、ユニットの交換となります。



動作不良表示

動作不良の場合はデジタル表示します。下表にて対応してください。

表示記号	現象	原因	処置
E01	真空度が設定値に到達しない	①フタが閉じていない	フタを確実に閉じてください
		②パッキンの取付が悪い キズがある	パッキン取付確認か交換
		③真空ポンプの不良	修理に出してください
		④真空計の不良	
		⑤ホース、電磁弁、配線等の不良	
E02	フタを閉じても運転が始まらない	①フタが完全に閉じていない	フタを確実に閉じてください
		②マイクロスイッチが動作しない	修理に出してください
LP	運転中に電源が切れた (電源復帰後に表示)	電源コードが外れる、または停電	電源復帰後 停止ボタンを押してください

故障かな?と思ったら

■電源コードを確認後、コンセントに差し込み下記の故障状況を確認してください。
部品交換を行うときは、必ず差込プラグをコンセントから抜いて行ってください。

症状	原因/処置										
	電源が入らない	デジタル表示されない	真空度が設定できない	真空度が上がらない	真空度が上がらない	真空度が上がらない	シールが出来ない	シールがきれいに出来ない	シールが汚れている	シールが剥がれている	本体が熱い
調べる場所											
差込プラグ*	●	●									プラグの根元を確認し、断線の場合は修理に出してください。
電源コード*	●	●									電源コードを確認し、断線の場合は修理に出してください。
本体プラグ接続器*	●	●									プラグの両根元を確認し、断線の場合は、修理に出してください。
電流ヒューズ*	●	●									電流ヒューズを確認し、切れている場合は修理に出してください。
フタ					●						フタを閉じていますか? フタを閉じた時しっかり上から押えていますか?
フタ用パッキン					●	●					傷、裂けがあれば、交換してください。
圧着シリコンゴム									●		傷、裂けがあれば、交換してください。
真空度設定					●	●					真空度設定を再度調整してください。
シール時間設定								●	●		シール時間設定値を再度調整してください。
基板*	●	●	●	●	●			●		●	操作パネルを確認して、異常あれば修理に出してください。
ヒーターユニット								●	●		ヒーターの断線、キズ、変色している場合は、交換してください。
フッ素樹脂絶縁粘着テープ									●		破れ、しわ、ざらつき、変色があれば交換してください。
マイクロスイッチ*					●						フタを閉じたとき、内部から「カチツ」と音がしなければ、修理に出してください。
真空ポンプ*					●	●					真空動作を確認して、動作しない場合、動作するが真空度が上がらない場合は修理に出してください。
作業状態										●	連続作業を止めてください。

*マークが付いている部品は修理技術者の方がおこない、それ以外の方はお買い上げの販売店、または、お客様相談センターまでご相談ください。

補修部品・別売品

No.	型番	部品名
1	NPT-280	フッ素樹脂絶縁粘着テープ (2枚)
2	NPH-U280	ヒーターユニット (1本)
3	NPP-280	フタ用パッキン (1本)
4	NPG-280	圧着シリコンゴム (1本)
5	NPB-280	袋押えホルダー組 (一式)

仕様

品名	小型真空包装机	脱気速度	約77ℓ/分
型番	NL-280V-10A	連続使用時間	2時間(ショット間休止時間:30秒) (約100ショット)
電源	AC100V 50/60Hz	真空ポンプ	オイルレス
定格消費電力	ヒーター加熱時:1,100W 真空ポンプ運転時:370W/420W	製品寸法	幅372×奥行500×高さ355mm (フタ開時:560) ※幅はロックレバー突出:12含む ※奥行は操作盤:45凸、後面金具:40凸含む
シール寸法	長さ280mm×幅10mm	質量	約27.8Kg
接着部の温度	約250℃	電源コード	3芯キャブタイヤ VCTF 1.25mm ² 有効長 1.8m
真空設定	最大:100% 自由設定:50~100%	電源ヒューズ	250V 15A
シール時間	設定時間:6.0~0秒(0.5秒間隔)	付属品	フッ素樹脂絶縁粘着テープ 2枚 ナイロンポリ袋 10枚
繰返しモード	3分毎に設定真空度と大気圧付近の繰返しを最大10回行う		
冷却時間	2秒		
真空槽寸法	幅300×奥行350×高さ105mm		
フタ材質	透明合成樹脂		
到達真空度	約-99kPa以上		

保証とアフターサービス

修理・お取り扱い・お手入れなどのご相談

まず、お買い上げの販売店へお申し付けください。

修理を依頼されるとき

使用中に異常が生じた場合は、必ず差込プラグをコンセントより抜いてお買い上げの販売店、またはシユアーお客様ご相談センターへお問い合わせください。

●保証期間中は保証書の規定に従って、お買い上げの販売店が修理させていただきます。恐れ入りますが、製品に保証書を添えてご持参ください。

●保証期間が過ぎているときは修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後5年です。

(注)性能部品とは、その製品の性能を維持するために必要な部品です。

●廃棄処分について | 廃棄は専門業者または、お求めなった販売店、または、シユアーお客様ご相談センターへご相談ください。

■最新情報 | <http://www.sure-ishizaki.co.jp>

シユアーお客様ご相談センター	〒340-0807 埼玉県八潮市新町9
TEL 048-931-3110	受付時間 月~金の9時~12時 13時~17時 (祝日・年末年始・夏季などの休業中を除く)

SURE 株式会社 石崎電機製作所

東日本営業所 〒111-0051 東京都台東区蔵前3-5-15 TEL.03-5687-7031
西日本営業所 〒550-0013 大阪市西区新町1-25-7 TEL.06-6541-3893